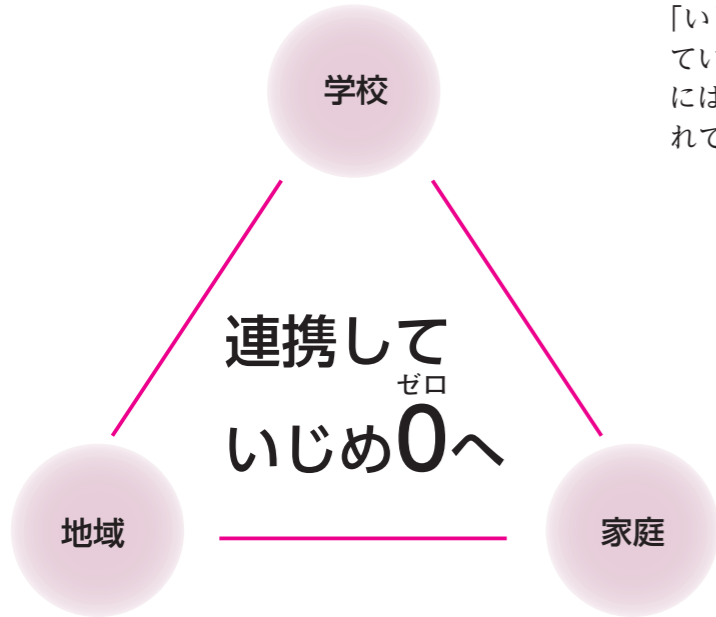


## いじめ撲滅に向けて

本市は学校教育における重要施策の一つとして「いじめ対策を重点においた人権教育の推進」を掲げています。いじめを起こさせない、なくしていくためには学校・家庭・地域が連携していくことが求められています。



家庭での取り組みなど、活発な意見が飛び交った教育懇談会

**子どもたちの取り組み**  
本市では子どものいじめ問題に対して子ども、大人の両方から根絶に向けて取り組んでいます。  
全小中高等学校の子どものたちがいじめ問題の解決や未然防止について話し合い、その根絶を図る「子ども会議」を実施しています。その中で子どもたちの話し合いから生まれた「スマイルハイタッチあいさつ運動」HAPPYはあとふるツ

**大人の取り組み**  
学校・家庭・地域が連携して子どものいじめ問題の解決について  
リー運動は平成26年度から取り組んでおり、明るいあいさつなどにつながっています。  
最近ではSNSやケータイなどを使用した新たないじめが問題となっているので、本年度の子ども会議では、その対策について話し合いを進めていく予定です。

**学校でも**  
話し合う「教育懇談会」を5つの中学校区ごとに開催しています。この懇談会には地域の人や学校関係者、保護者が参加し、それぞれの立場からの貴重な意見が活発に交わされます。意見交換を通して、学校・家庭・地域がつながる必要性や立場ごとの役割を確認し、いじめをなくす基盤づくりを進めています。

日常的に子どもたちの人権教育の育成に努めています。特に、各学校で人権週間を定め、人権標語の作成やHAPPYはあとふるツリー運動で他の人のよさに触れることを通して、人権感覚を一層高めることに取り組んでいます。  
また27・28年度の2年間、美土里小学校を「人権教育実践推進校」に指定しています。美土里小学校では「いじめをはじめとする差別や偏見を見抜く力」「いじめをしない、させない、許さない実践力」の育成を目指し、子どもたちがより活躍できる場として、学校のあり方を調査・研究しています。11月にその成果を発表し、その取り組みを市内全小中学校へ広げたいきます。



**川** から遠ざかる現代の子どもたち。「川は危険な面もあります。でも子どもたちが川に無関心になってはいけないのです」と話すのはかな川水辺の楽校運営協議会で会長を務める掛川優子さん。  
川は今も昔も人間の生活には欠かせないものです。文明が進んだ今も飲み水や生活用水などに利用され、生活の源となっています。また川は子どもたちにとって自然や動植物と向き合い、命の大切さや自然の仕組みを理解する大切な

### 次世代につなげたい

場でもあります。「水辺の楽校は、川を通して子どもたちの心を育てる活動をしています」と穏やかに話します。楽校には毎年市内の小中学生が訪れ、川の中で動植物を観察したり水質調査をしたりして川と触れ合います。普段川で遊ぶ機会の少ない子どもたちは、時間を忘れて駆け巡ります。掛川さんはそんな子どもたちの姿を「活動を続ける一番の励みになる」と目を細めます。  
「これからも子どもたちに川の大切さを伝え、川の生態系を守る活動を続けていきたい」と未来を見据えます。



かな川水辺の楽校運営協議会  
かけがわ ゆうこ  
掛川 優子さん(白石)

**Profile**  
1952年北海道生まれ。かな川水辺の楽校の創設時から運営協議会のメンバーとして活動。イベントなどを通じて、子どもたちに川の大切さを伝える。

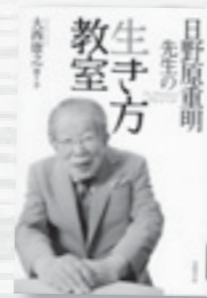
## welcome to library 本との出会い

図書館司書がセレクトした新刊情報

開館時間 午前9時～午後8時(土・日曜日、祝日は午後5時まで)  
休館日 月曜日  
問い合わせ 藤岡市立図書館☎21669

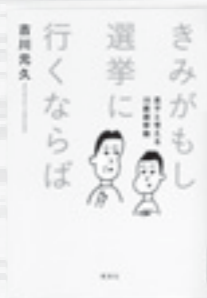
### コーヒーが冷めないうちに

#### 日野原重明先生の生き方教室



聞き手▷大西康之  
100歳を超えても挑戦し続ける。人生を朗らかに生きるためのバイブル。

#### きみがもし選挙に行くならば



著者▷古川元久  
どうして選挙が必要なの？現職国会議員が本音で語り明かした親子問答。



著者▷川口俊和  
過去に戻る喫茶店で起こった心温まる4つの奇跡の物語。